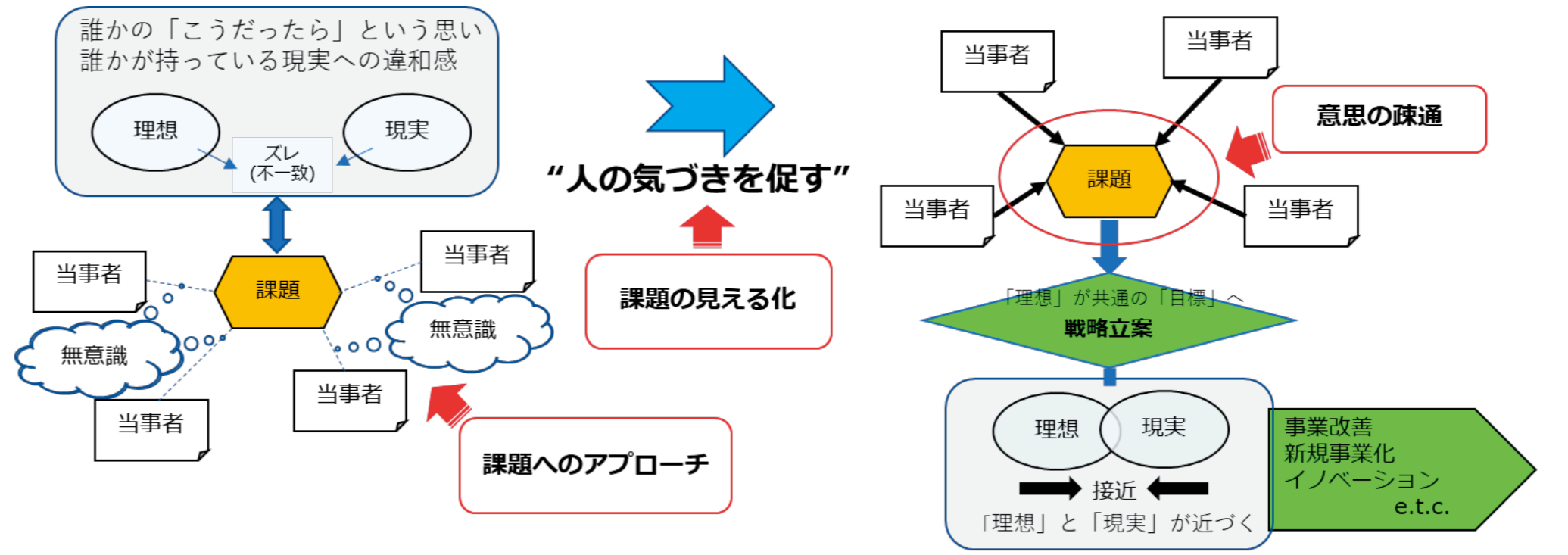


見える化で不一致解消 一事業設計・改善に向けた研究一

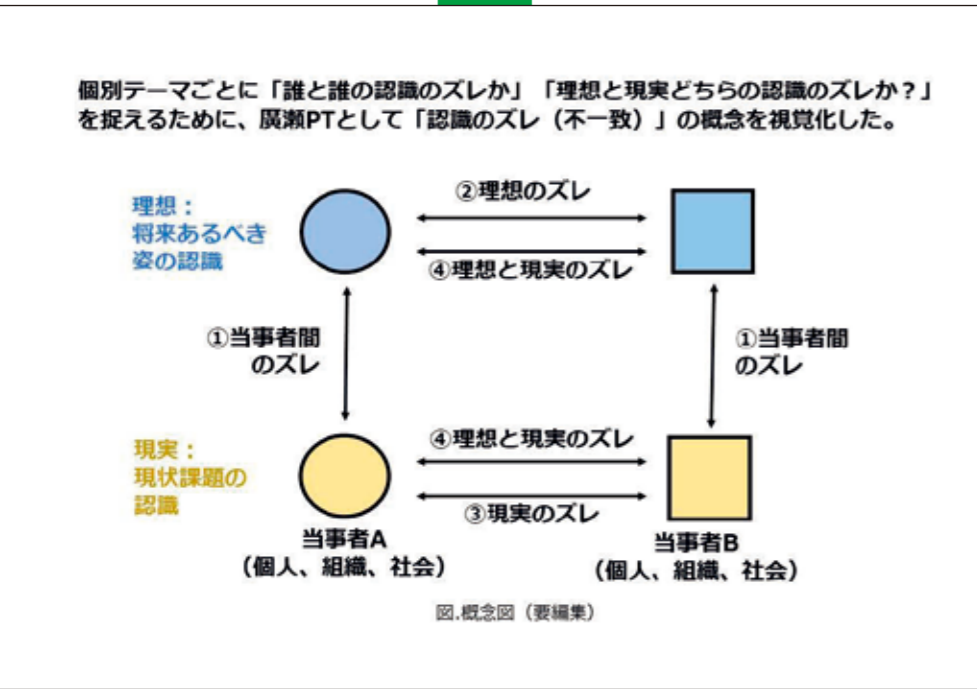
共通の課題意識

社会で起きている多くの問題の根本原因は、様々なシーンにおける当事者または当事者同士が認識する理想と現実のズレ(不一致)にあると考えた。

仮説を設定：
5つの理想と現実のズレ(不一致)を
見える化することで、
解決へ向けての
気づきを促す。

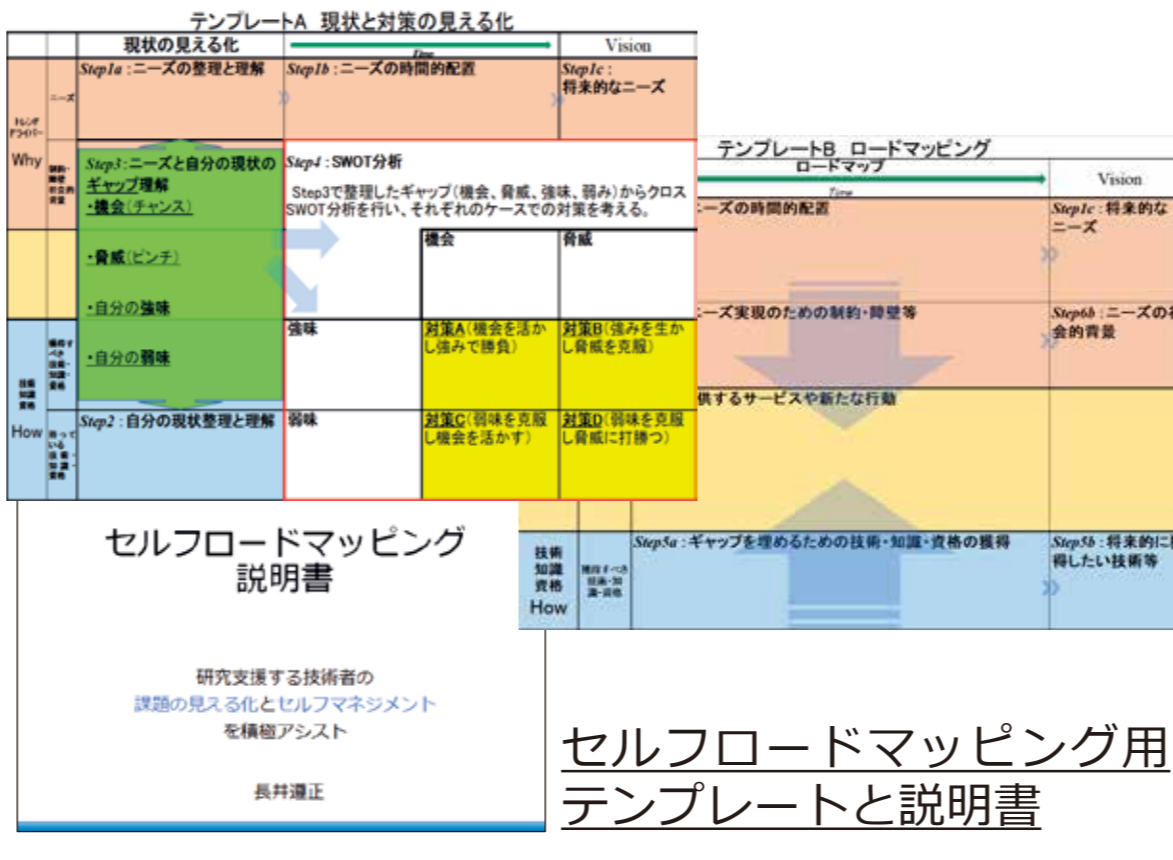


ズレ(不一致)の概念図

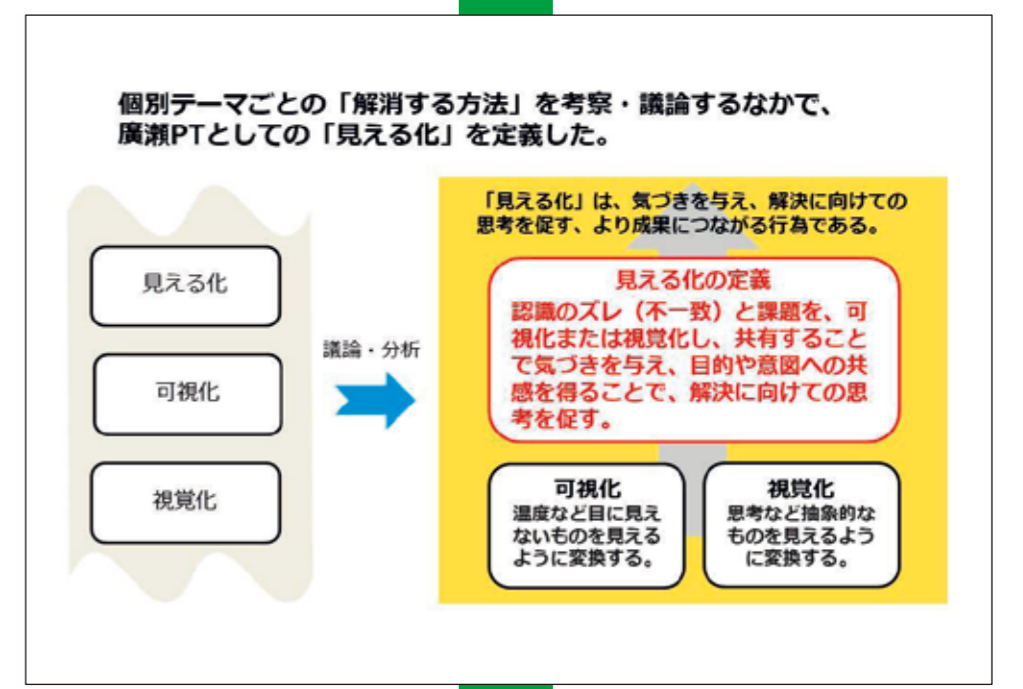


研究支援する技術者の課題の見える化とセルフマネジメントを可能にするセルフロードマップの検討

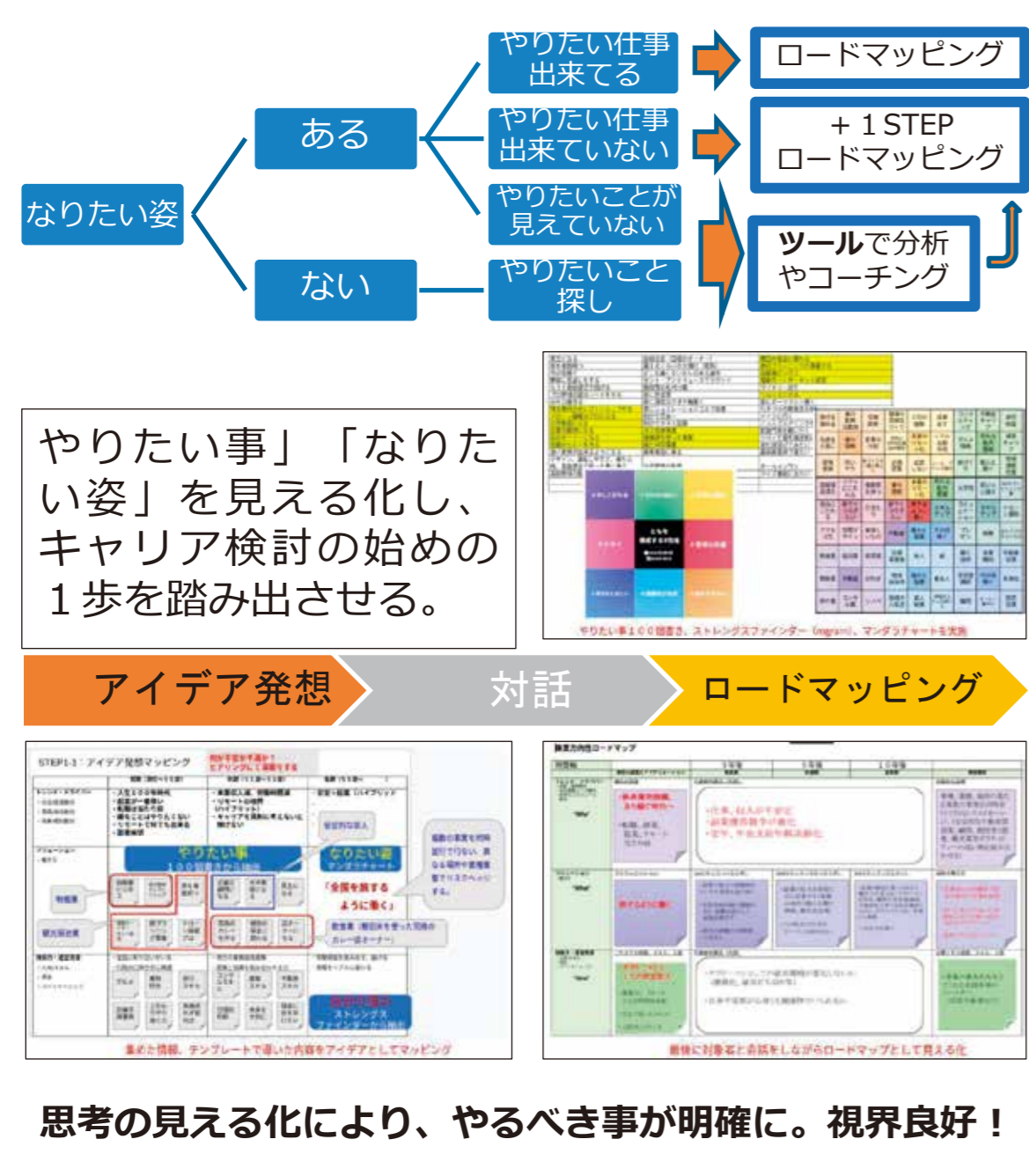
研究機関で研究支援する民間技術者と客先研究者の業務到達点に対する意思のズレに注目した。意思のズレの縮小には、技術者の課題の見える化の精度の向上が有効と考えた。解決法として技術者1人で実施できるセルフロードマップを検討。業務改善につなげる。



見える化の定義



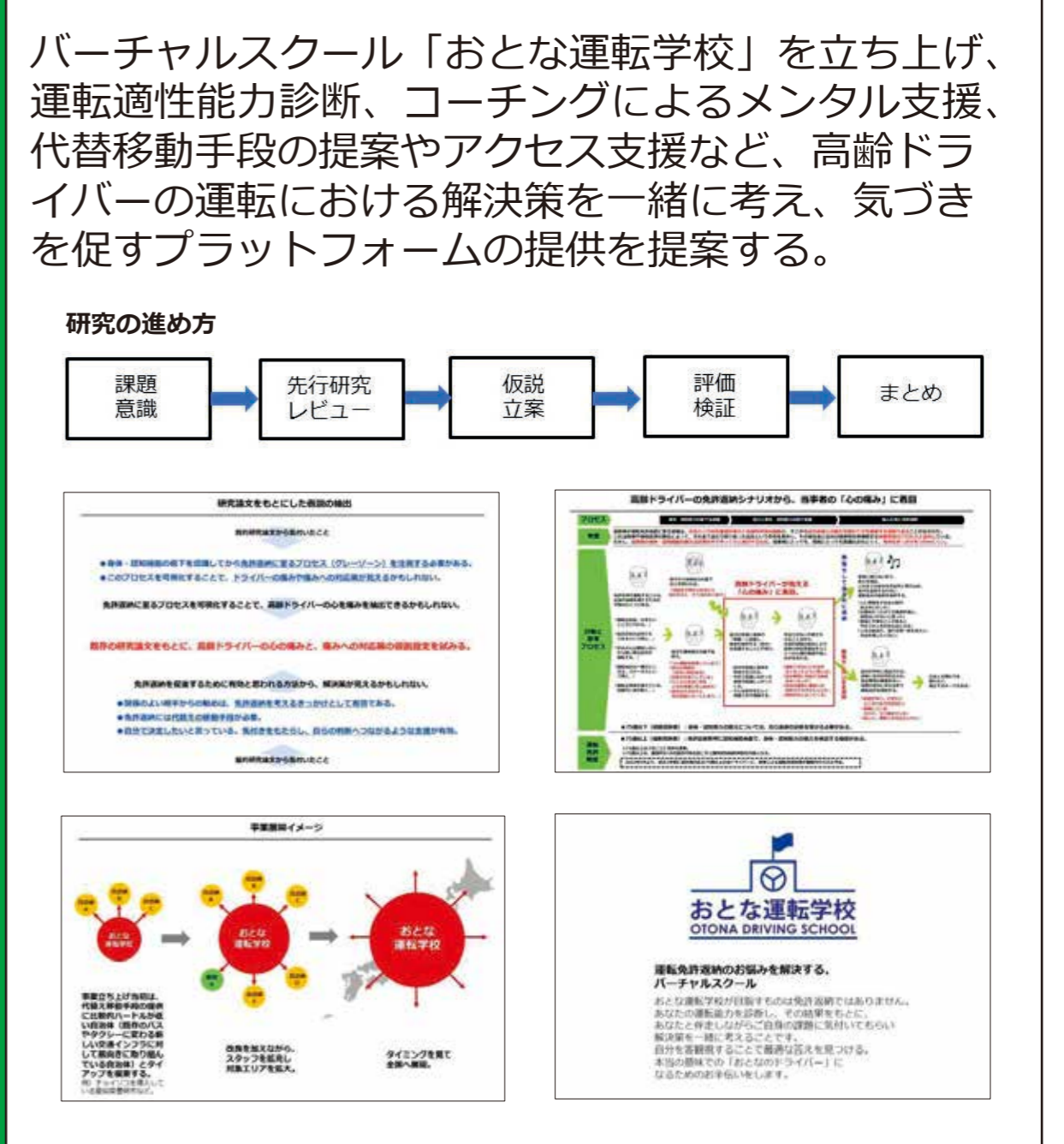
ロードマップ思考を用いたキャリアプラン策定コンサルティングの提案



見える化で 不一致解消

事業設計・改善に向けた研究

高齢ドライバーの運転停止へのプロセスを支援する仕組みの考察と事業化



発達等の障害者と周囲へのビジュアライゼーション研究と事業計画書の作成

支援提供者(養育施設)及び発達障害者雇用主(企業)と当事者(発達等障害者)における理想と現実について、それぞれ調査によって明確化し、根本課題を抽出する。課題解決策として発達等障害者の就労支援や能力開発を促す方法をビジュアライゼーション等を応用して研究する。これらに基づいて事業企画を模索、立案する。



発達障害者雇用のあるべき姿：雇用主と被用者における現状把握と比較分析

プロフェッショナルファームの発達障害者雇用について、雇用主と被用者の両方にヒアリングし、同業他社で比較分析した。
・雇用主側へのヒアリング：4社
・被用者側へのヒアリング：6人
・自治体のヒアリング：2団体

